



# つうしん ナミビア通信

JICA 青年海外協力隊  
2023 年度 1 次隊  
エロンゴサ小学校  
吉野 葵  
2024 年 6 月 第 10 号

平山小学校のみなさんこんにちは。ナミビアの小学校で先生をしている吉野です。

以前のナミビア通信で、私が住んでいるウサコスという町を紹介したのを覚えていますか？その際、ナミビアのほとんどの町は「タウン」と「ロケーション」という 2 つの地域に分かれているという話を少しだけしました。今日は、その「タウン」と「ロケーション」の違いについて、書いていこうと思います。

## 「タウン」と「ロケーション」

ウサコス（私の住んでいる町）のタウンとロケーション

タウン

タウンのメイン通りには、スーパー や 家具屋、肉屋、レストランなどがあります。

住宅街には石のブロックなどで作られた大きめで丈夫な家が多いです。タウンには、経済面で比較的裕福な家庭の人が住んでいる印象です。



↑タウンの住宅街（私の家の前の通り）



↑タウンのメイン通り

ロケーション

私が働いている小学校もロケーションにあります。ミニマート（小さめのスーパー）や教会などもあります。ロケーションの住宅街には、トタン（鉄の板）で作られた小さな家が多く並んでいます。土地は政府から無償で提供されているそうです。



↑ロケーションの住宅街



↑ロケーションのメイン通り

## スワコップムンド（大きめの都市）のタウンとロケーション

大きめの都市へ行くと、小さな町に比べてタウンとロケーションの差が大きいように感じます。



↑ロケーション



↑タウン

### コラム 「ジニ係数」とは…？

データの不均等さを表す統計値。社会における所得の不平等さを測る指標として使われる。社会の騒乱が起りやすい警戒ラインは40%以上といわれている。【参考：[ジニ係数 - Wikipedia](#)】

この値が0%であれば所得が完全に均等に分けられているということになり、この値が100%であればその国の所得を1人の人間が全て独り占めしている状態ということになります。つまり、100%に近ければ近いほど、所得が偏っていることになります。ちなみに日本のジニ係数は32.9%（2013年データ）です。世界で最もジニ係数が大きい（所得格差が大きい）のはナミビアの隣にある「南アフリカ共和国」という国で、ジニ係数は63.0%（2014年データ）です。そして、2番目がナミビア59.1%（2015年データ）です。つまり、ナミビアは世界で2番目に所得格差が大きい国だということです。

ナミビアと同じ南部アフリカに「マラウイ」という国があります。GDP（経済力の大きさを測る指標）は、ナミビアの8分の1程度。日本の50分の1程度。つまり、マラウイはGDPで他の国と比べるととても貧しい国だといえます。しかし、ジニ係数はナミビアよりかなり低い38.5%（2019年データ）です。

【参考：[Gini index | Data \(worldbank.org\)](#)、[GDP per capita \(current US\\$\) | Data \(worldbank.org\)](#)】

国	南アフリカ	ナミビア	マラウイ	日本
1人あたりGDP(USドル)	6766.5（2022年）	5031.1（2022年）	645.2（2022年）	34017.3（2022年）
ジニ係数(%)	63.0（2014年）	59.1（2015年）	38.5（2019年）	32.9（2013年）

難しい話をしまいました。私はこの数値から思うことがたくさんあったので、今回少しだけ紹介してみました。もしも興味をもってくれた人がいたら、ぜひ他の国のことについても調べてみてください。

### ナミビア通信しつもんフォーム

このナミビア通信を通して、みなさんが新たに何かに興味をもってくれたらいいなという思いから、質問フォームを作ってみました！気になったことはそのままにせず、自分で調べたり、質問したりして解決してみてください！（ギガタブで右のQRコードを読み取ると質問ができます。）

ホームページ上では公開を控えさせていただきます。